

薬剤部長職場放浪記

第4回



部 長：部長になり赴任した施設はがん診療を行っていたが、月の抗がん剤調製 350 件数を超える施設は初めてなのでかなり興味を引くなあ。副部長にがん化学療法の業務体制を聞いてみよっ！

副部長：抗がん剤調製はセントラルから1名が入っています。調製件数が多い時間帯は2人体制にしています。出来上がると調製者がチャイムで知らせ、セントラルの薬剤師が監査を行い払い出す流れです。細かいところはがん担当薬剤師に聞くとよいですよ！

部 長：そうしま〜す♪ T君、新しい抗がん剤がでてきて大変な業務だけどレジメン管理とか調製法についてどのような点を気にして、管理や調製手順を作成しているのかな。

がん担当 T：院内には約 400 件の登録レジメンがあります。医師や看護師を含め安全な化学療法が行えるよう投与量や支持療法を標準化して登録しています。調製は慣れないスタッフでも安心して行えるように希釈液量を表示したり、手順が簡便になるように設定しています。

部 長：連携充実加算、体制充実加算とも算定しているけど、保険薬局さんとの連携はどうかな！

がん担当 S：それなら、いわき市がん連携セミナー「HAMAKAZE」で広めたい事もお話ししてはどうでしょう！

がん担当 T：連携充実加算ではレジメン内容・副作用の発現状況・臨床検査値の情報を患者さんに説明し、調剤薬局の薬剤師へ情報共有の流れで、調剤薬局の薬剤師さんと密に連携を取っています。送られてきたトレーシングレポートをもとに医師の診療前面談を行ったところ(体制充実加算)、患者さんの QOL が大きく改善したこともありました。こうした経験を「HAMAKAZE」という場を生かして地域に広げていけたらと考えています。



薬剤部ホームページ 薬剤部関連情報

部 長：T君の様なスタッフを後押しできるのが役割か。頑張らねば！

部 長：先日、海沿いをドライブして気になる景色が目に入った。
弁天岬というらしい。弁天岬の南側には 6 世紀後半～8 世紀初頭の古墳があり須恵器や武具、ガラス玉などが出土しているそう。賽の河原と呼ばれる洞窟もあり、昔から土着の民に守られてきた神聖な土地なのだろうと思わせる場所であった。

つつく！



弁天岬（富神崎）